

中核市「鳥取市」市政推進統括本部資料	
平成30年5月7日	
担当課	政策企画課
電話(内線)	20-3153 (内線 2313)

総合政策調査委託事業の平成29年度成果と平成30年度の取組について

1 平成29年度成果について（※別添資料参照）

- (1) 賀露地区における夜間臭気の原因究明に関する調査研究

委託先：公立鳥取環境大学

(担当部署：農業振興課生産流通振興室)

- (2) 鳥取市における漁業振興にかかる諸課題の抽出

委託先：公立鳥取環境大学

(担当部署：林務水産課)

- (3) 除雪路線の優先順位の決定手法に関する調査研究

委託先：鳥取大学

(担当部署：道路課)

- (4) 新たなインターチェンジを活用した福部町のまちづくりに関する調査

委託先：鳥取大学

(担当部署：福部町総合支所地域振興課)

2 平成30年度取組み

- (1) 鳥取市中山間地域における小規模・高齢化集落实態調査

委託先：鳥取大学

(担当部署：地域振興課)

- (2) 子ども・子育て支援事業ニーズ調査事業

委託先：鳥取大学を予定

(担当部署：こども家庭課)

- (3) 都市のコンパクト化と居住地の日常サービス水準に関する調査研究

委託先：鳥取大学

(担当部署：都市企画課)

賀露地区における夜間臭気の原因究明に関する調査研究報告（概要）

1 目的、概要

賀露地区においては、養鶏場からの臭気が市民生活の問題になっており、賀露自治会、養鶏業者、市による臭気対策会議を開催し、協議を重ねている。養鶏業者は様々な臭気対策に取り組み、臭うエリアは狭まりつつあるが、夏場の夜間に強い臭気が発生していることから、この原因究明が求められている。

夏場の夜間臭気の原因を究明し、臭気問題の解決へつなげるため、気象学的観点による調査研究を実施した。（委託先：公立鳥取環境大学 重田祥範准教授）

2 実施方法

(1) 養鶏場周辺の大気の流れ

養鶏場周辺の大気の流れを把握するため、養鶏場へ設置した風向風速計と気象観測施設（鳥取地方気象台、アメダス湖山）の風データを用いて相関分析を行った。

(2) 臭気調査結果と風況比較

臭気指数と風況の関係を把握するため、臭気調査を行った日のアメダス湖山気象観測施設と養鶏場へ設置した風向風速計の風況比較を行った。

3 調査結果

(1) 養鶏場周辺の大気の流れ

暖候期の養鶏場と気象観測施設（鳥取地方気象台、アメダス湖山）の風速の相関分析を行った結果、観測される風に大きな差が認められた。養鶏場とアメダス湖山は距離が近いにも関わらず差が大きいことから、賀露地区周辺における大気の流れは地域によって大きく異なり、地理的な影響が示唆された。

(2) 臭気調査結果と風況比較

臭気調査を行った4日間の風況比較の結果、臭気指数と風向の関係に明瞭な傾向は認められないが、午後7時から9時の風の時間帯に風速が弱まり、臭気はその場に滞留する可能性が示唆された。

結果として、風況と臭気との因果関係を立証するには至らなかった。



平成29年8月24日（木）の風況 この日、夜の臭気調査で臭気指数の基準値14を超える21を測定
日中の海風（水色）から夜間の陸風（赤色）へ変わる午後7時から9時の時間帯に風速が弱まり臭気が滞留すると推測

4 考察

夏場の夜間臭気の原因は、次の要因により、大気が安定な状態になっている場合に発生していると推測された。

- ・夜間は日中に比べて風の動きが活発ではなく、地表面に安定層が形成され、臭気要因を含む物質が地表付近に滞留しやすくなる
- ・滞留した臭気の塊は、地表の影響を受けて低地に蓄積されていく
- ・夏は大気中に溶け込んでいる水分量が冬に比べて多く、臭気を増大させている
- ・日中の海風、夜間の陸風となる海陸風循環が夏場は発達しやすく、この循環が臭気の拡散へ大きく寄与している
- ・夜間の風速は日中と比べて小さくなることから、午後7時から10時の風の時間帯を含めた時間に臭気が高くなる

5 今後の取組み

調査研究を委託した公立鳥取環境大学重田准教授において、今年度、独自に調査研究を行い、更なる原因究明を行うとともに、調査研究について臭気対策会議等で報告、協議し、臭気問題の対応策について検討する。

今回の調査研究結果から、養鶏業者が、養鶏場内と賀露地区でも特に臭気のある地域との間に、臭気の拡散を防止するネットを試験的に設置し、効果確認を行う。

平成29年度総合政策調査委託事業

「鳥取市における漁業振興にかかる諸課題の抽出」

1. 目的、概要

本市では、漁業振興を図るため、県等と連携し様々な支援を行ってきたが、漁業従事者の高齢化や減少など厳しい状況が続いている。本市における沿岸漁業の振興に有効な解決策を見出すため、漁業者の確保及び流通に係る課題の明確化を目的に調査を行った。

2. 実施方法

- 地区別漁業の実情把握；県及び県漁協が保有する資料から、地区別（福部・賀露・酒津・浜村・夏泊・青谷）の漁業者数や漁獲量・金額等の推移を把握した。
- 漁法別の経営実態把握；県漁協が保有する資料から、漁法毎に、年齢と漁獲金額の相関並びに漁業経費率を把握した。
- 漁業者の労働時間の実情把握；漁業者から漁労関連やその他の年間労働時間の概数を、聞き取りにより把握した。
- 水産物流通形態の把握；賀露地区の仲買業者から仕入れや出荷先等について、聞き取りにより概略を把握した。（本市で漁獲される水産物の大部分は賀露市場に集荷後、競りを経て仲買業者に販売）

3. 調査結果

- 地区別漁業の実情；沿岸漁業者は減少傾向で、高齢化が進行している。地区（賀露地区を除く）の水揚げの半分以上を少数で占め、構造的に脆弱な状況。
- 漁法別の経営実態；漁獲金額に占める経費は、潜水漁業で20%弱、その他で35%前後、年間漁獲金額は主とする漁法等で異なるが、300～1,000万円程度が期待できる。いずれの漁法も加齢とともに減少が見込まれるが、釣り業は初期投資・労働力が低いため高齢者の着業が期待できる。潜水業も初期投資や経費が低いため、副業に適する。
- 漁業者の労働環境；労働時間が長くなると漁獲金額が多くなる傾向が認められた。沿岸漁業者の労働時間は、一部の漁法を除き、一般労働者の平均労働時間に比べてやや少なく、労働単価については、一般労働者に比べ、やや高いと考えられる。
- 流通形態；一般的に、漁業者から消費者までに数段階の取引が生じるが、本市では、取扱量の半分は仲買業者から直接消費者に販売される。仲買業者としても生産体制の維持・増加を要望している。

4. 今後の取り組み

本調査結果を基に、生産体制を維持・増加するため、若手新規就業者対策の強化とともに、高齢労働力の活用といった担い手対策や放流などの栽培漁業による安定した漁獲量の確保、仲買業者との連携強化などに着目し、関係機関と検討を重ね、効果的かつ具体的な取り組みを行っていく。

除雪路線の優先順位の決定手法に関する調査研究

1-1. 目的、概要

本市において、平成29年1月に57cm、2月に91cmに大規模な降雪があり、交通や市民生活に混乱が生じました。このような大規模な降雪に対しては、すべての路線を一律に除雪することは不可能であり、集中的に除雪車を配し、除雪する路線とそうでない路線を事前に区分していく必要がある。

そこで、いろいろな要素に基づき、優先性を持たすことで、除雪作業を円滑に遂行するという仕組みが不可欠である。このたび、それぞれの路線の特性である、バス路線、沿道に立地する施設、物流、迂回ルートの有無などに着目し、重要度に応じて路線の優先性を順位づけることで、市道の除雪優先順位を設定する。

1-2. 調査概要について

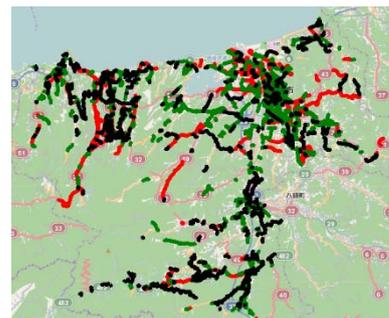
- 除雪の対象となっている路線の把握
 - それらの路線の道路の条件（幅員など）、沿道環境（立地施設）、物流の把握
 - 迂回路の有無もしくは迂回に要する距離
 - VICS データを活用した、道路の交通量の把握
- 以上を総合的に分析し、優先除雪路線の決定
- GISによる優先順位の可視化

1-3. 調査結果

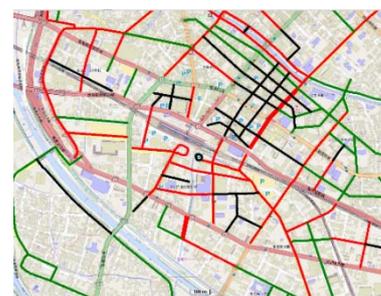
1. 優先順位

	優先順位	備考
I	(1)国道、県道	※県道には、市が除雪を担う路線がある
	(2)主要な幹線ならびに重要な防災拠点への交通を処理する道路	・都市計画道路（幹線街路） ・1～2次防災拠点、消防署、東部医師会急患診療所、公設地方卸売市場へアクセスする道路
	(3)補完的な幹線ならびに主要な施設への交通を処理する道路	・都市計画道路（区画街路） ・バス路線（ループ麒麟獅子を除く） ・以前に県道であった市道 ・3次防災拠点、主要なスーパー、火葬場にアクセスする道路
	(4)孤立集落にアクセスする道路	・岩坪（神戸地区）上野（稲葉山地区）、奥細見（明治地区）、水谷（鹿野町）
II	(5-1)各地区の出入の交通を集約して処理する道路	・学校の玄関前、給食車搬入路
	(5-2)小中高特別支援学校にアクセスする道路	
III	その他路線	

全景



近景



- 優先除雪路線 I
- 優先除雪路線 II
- その他路線

2. 調査結果を受けて鳥取市の今後の取組

上記の表を活用し、平成29年度に関しては、優先順位(1),(2),(3),(4)を優先除雪路線Ⅰとし、優先順位(5-1),(5-2)を優先除雪路線Ⅱとした。平成29年度の降雪は少なかったため、平成30年度以降に優先除雪路線の検証に引き続き取り組んでいく。

新たなインターチェンジを活用した福部町のまちづくりに関する調査報告

1 目的と概要

福部町内には、山陰近畿自動車道のインターチェンジ(以下、ICという)は1か所しかなく、地域として自動車道を十分に利用できない。鳥取砂丘周辺の観光振興、渋滞対策、周遊促進の強化など新たなまちづくりのためには福部IC～大谷ICの間に新たなICが必要である。

また、新たなICを活用して、福部町をより活力のある住みやすいまちづくりを進めることを目的とし、そのための諸調査を行い、課題・方向性を明らかにする。

2 実施方法

国立大学法人鳥取大学地域学部山下博樹研究室に委託して、町内の商業施設、交通網等の社会資源を把握し、現状調査の結果をもとに、地域の課題を考える。

また、鳥取市都市企画課や福部町地域振興会議と随時協議し、「鳥取市都市計画マスタープラン」との整合性を図りながら、福部町のまちづくりについて検討を行った。

3 調査結果

福部町は、総合支所や学校など公共施設をはじめとしたインフラがコンパクトに整備されている一方、日常生活のためのスーパーマーケットなどの店舗が不足している。そのため、高齢者等の交通弱者が買い物難民化するなどの問題も現れている。

鳥取砂丘は本市の一大観光地であり、観光シーズンには砂丘周辺は慢性的に渋滞している。現在の山陰近畿自動車道のICは湯山地区にあり、福部町中心部から約3km離れているため、その機能が十分に生かされていると言えない。

まちづくりの一つの起爆剤として、福部中心部により近い場所に新しいICを設置し、併せてその付近に道の駅等を設置することで、さまざまな課題の解決の一助になると考えられる。

以上の課題を克服するために取り組むポイントを考察し、今後の福部のまちづくりの方向性を示す「福部町のまちづくり構想」を策定した。(以下、取り組むポイント)

① 【福部中心部の中心機能の充実】

店舗を支所～国道9号間に誘致。JR福部駅の利活用(住民交流スペースとして)

② 【山陰近畿自動車道の新ICの設置】

山陰近畿自動車道と市道の交差する付近に設置。防災上、県東側へのバイパスとして有効。

③ 【新IC付近への道の駅等の設置】

観光客や近隣住民を対象に地元農産物を販売。

④ 【新たな道の駅等と福部町中心部の中心機能の関係】

道の駅等にスーパーマーケットやガソリンスタンドを併設。

⑤ 【町内移動手段の改善】

町内循環バス(らっちゃんバス)の運行内容の改善(運行日時、ルート)

⑥ 【塩見川の治水対策の強化】

河川改修工事や内水排除対策の取り組み強化。

⑦ 【居住促進の取り組み】

日常生活環境の改善により住宅(人口)増加。

4 今後の取り組み

本構想は、今後の福部町のまちづくりの大まかな方向性を示しているが、具体的な計画や取り組みについては、地域振興会議やまちづくり協議会等を中心として、住民の活発な意見や議論を踏まえて、検討していく。